

ひやくいろやま
② 百色山

百色山(ひたちなか市三反田地先)は、1660年頃に水戸藩2代藩主徳川光圀公によって百種類の樹木が植樹されたことから名が付いた。この百色山に隣接した那珂川の河道内には、中州が形成され、エノキやオニグルミなどの樹林帯となっており、その周囲の水際にはヨシが群生している。樹林帯の上流には入り江状のワンドや干潟があり、ワンドはボラ、マハゼなどの稚魚の生育場・避難場となっている。干潟では汽水性のアリアケモドキやクロベンケイガニなど小型のカニ類、ヨシ原ではアシハラガニ、泥の中にはゴカイやイトメが生息する。

上流側のヨシ原には、初夏にオオヨシキリやセッカが飛来し繁殖する。晩夏には渡り前のツバメが集団でねぐらに利用したり、カワラヒワやホオジロが採餌に訪れたりする。

ワンドのある百色山付近で見られるような水域は、止水性のトンボ類にとって良好な生息地となっている。ヨシやガマの生えた池沼では、クロイトトンボやマダラヤンマが、ヨシやマコモの生育する湿地ではジュウクホシテントウやジュウサンホシテントウなどの昆虫が見られる。



百色山付近の中州 (ひたちなか市 6月)



オニグルミ (クルミ科)
(写真: 安昌美氏)



百色山緑地のモチノキ (ひたちなか市 7月)

図 4-59 百色山周辺の様子



ゴイサギ(幼鳥) (サギ科)
(写真: 榊建設環境研究所)



カワウ (ウ科)
(写真: 榊日水コン)



クロベンケイガニ (イワガニ科)
(写真: 小菅 次男氏)



クロイトトンボ (イトトンボ科)
(写真: 小菅 次男氏)



ジュウクホシテントウ*
(テントウムシ科)
(写真: 榊日水コン)



ジュウサンホシテントウ
(テントウムシ科)
(写真: 栃木県立博物館)

*ジュウクホシテントウ(テントウムシ科)
河川のヨシ原などに生息し、成虫、幼虫ともにヨシにつくアブラムシ類などを捕食する。

図 4-60 百色山周辺の生物